三寶寺からのお知らせとお願い

新緑の輝きが眩しく感じる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか

三寶寺からは檀門信徒の願いでありました阿弥陀如来立像安置までの経過をご報告いたします。

三月二十六日現在、東京教務所御本仏担当鎌田様から本山との最終連絡あり、小堀仏具店との確認により、五月初め頃御本仏完成とのことを伝達。

五月七日に希望者の皆様とご一緒に京都の平安佛所に御本仏のお迎えにまいります。同日に小堀仏具店へ御本仏、本山提出の願事書類、願事礼金を預けます（この間に本山にてお預けしたもの全てを小堀仏具店が持参し、御本仏点検・同御裏書きのための確認と、授与物委員会を経て、小堀仏具店に引き渡していただく）。その後七月六日、おわたましの儀（安置のための法要）を執り行います。

おわたましの儀の法要を執り行なわせていただくにあたり、種々のお手伝い、また、お願いをいたしたく思います。どうぞおわたましの法要が成功することを願ってご協力をお願いいたします。

おわたまし法要
稚児行列参加者募集

日　時　7月6日（日）
時　間　午前9時半集合
　　午前10時半出発
衣裳サイズ　身長147センチまで
申込締切　6月25日まで
参加費用　6千円

三寶寺周辺を歩いた後、記念撮影、記念品をお渡しします。雨天の場合は、衣裳を着けて記念撮影のみ行います。

衣裳の準備の都合がありますのでお申込はお早めに願います。

三寶寺・〇四六三（九三）三二三六

しんらんさまかるた　③

親鸞聖人のご生涯を題材にした「しんらんさまかるた」（すずき出版・工藤市郎絵）をご紹介しながら、聖人のご生涯、御教えにふれていきたいと思います。

いっしょうけんめい
えいざんで
べんきょう

昔、偉いお坊さんになるためには、比叡山に登って厳しい修行をしなければなりませんでした。親鸞さまは九歳の年より約二十年間、このお山で寒さや貧しさに耐え、一生懸命勉強されました。

むつかしい
おきょうを
よまれる

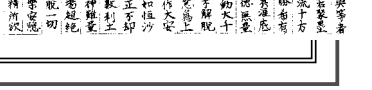
親鸞さまのお書きになった『教行信証』には、釈尊の経典をはじめ、遠くインド・中国・日本の聖典、外典など極めて広範囲な引用が見られ、その博学さは、実に目を見張るものがあります。

しょうとくたいしを
おうやまい

聖徳太子は日本仏教の原点であり「篤く三宝（仏法僧）を敬え」と、仏教に基づく正しい政治を実践された方です。比叡山時代から、親鸞さまは、聖徳太子を和国（日本）の教主と仰がれ、また観音さまの化身として篤く尊敬されました。

この心如来となる

感想
I様の声

写経にあたり、心をこめて墨をすり、一字一字に立ちむかわれた。

「その時、心が安らいでいました」と言われました。大切な人との中にある忘れられない思いは、写経の中に納められると良いでしょう。ここにその願文を掲載させていただき、一人でも多くの方が抜苦与楽（ばっくよらく）の方法の一つとなればと思います。